

ブドウ「あづましずく」の長梢せん定における摘芯方法と新梢生育及び果実品質との関係

福島県農業総合センター 果樹研究所
平成17年度果樹試験場試験成績書
平成18～19年度農業総合センター試験成績概要

1 部門名

果樹 - ブドウ - 生理・生態
分類コード 04 - 04 - 04000000

2 担当者

佐藤 守

3 要旨

「あづましずく」は開花後の新梢生育が旺盛であり、新梢の夏季管理の省力化を図る上で摘芯が効果的である。そこで「あづましずく」の摘芯技術を確立することを目的として2005年に摘芯時期(6葉期、満開期、満開後7日)について、2007年は満開期の摘芯の強度と新梢生育及び果実品質との関係を検討した。摘芯強度は生長点を除去する方法を弱摘芯、10円玉大の展開葉の直下で除去する方法を強摘芯とした。

- (1) 6葉期摘芯(満開前19日)では、満開期及び満開後7日摘芯に比較して、全葉数で50%以下であった。果粒肥大は6葉期摘芯で顕著であったが、着色は劣った。1日当たり展葉数の増加は満開期から顕著であり、早期に葉数を確保するためには満開～満開後7日が摘芯の適期と推察された(2005年)。
- (2) 摘芯部からの副梢(以下、先端副梢)の伸長は満開後14日から認められた。先端副梢の発生率は強摘芯区で良好であり、弱摘芯区では極めて低く、本梢と先端副梢を合わせた新梢長(以下、全長)は、強摘芯区が弱摘芯区より優った。摘芯区の本新梢長(摘芯部位までの新梢長)は無摘芯区の45%以下、全長では53%以下で、摘芯による新梢伸長抑制効果が明瞭に認められた。
- (3) 本梢と先端副梢を合わせた葉数(以下、全葉数)及び全ての副梢葉を合わせた総葉数では摘芯の強弱による有意差は認められなかった。なお強摘芯区では弱摘芯と比較して明らかに先端新梢以外の副梢発生は少なかった。
- (4) 果実品質では、平均粒重、最大10粒重、糖度で有意差が認められ、果粒重は摘芯区が無摘芯区より優ったが、糖度は強摘芯区が無摘芯区より低かった。

4 その他の資料等

なし